



# 学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和6年5月31日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



## 両小今昔

## 「両小賛歌」を高らかに

校長 渡邊 圭三

先日の「学校公開」には、多くの保護者の方にご参観いただきまして、ありがとうございます。さて、ご来校の際、体育館前方の壁に、二つの額が掲示されているのをご覧になったことがあるでしょうか。下手側にあるのが「校歌」で、上手側のものは「両小賛歌」、どちらも歌詞が記されています。両小賛歌は私が着任してからの約3年間はコロナ禍ということもあり耳にする機会がなかったのですが、昨年度末の「6年生を送る会」、4月の「1年生を迎える会」で数年ぶりに全校合唱しました。1年生の教室からは校歌とともに両小賛歌を繰り返し練習する歌声が聞こえ、日に日に子供たちが馴染んでいく様子が伝わってきます。

お祝いの集会等で代々歌う曲として定着してきた両小賛歌。昭和50年の開校110周年につくられたもので、作詞は「両小の子供」とあります。どんな経緯があったのか、周年記念誌からは誕生の様子は分からなかったのですが、本校同窓会報(平成24年7月)から作成に纏わるエピソードを見つけることが出来ました。その一部を紹介します。

両小賛歌を作る際、初めに曲があってそのフレーズに合わせてクラスごとに学級会の時間を使い歌詞の案を出し合っていました。そして出来上がったのが一番冒頭の歌詞「♪～夢色の青空 広がるこの町～」の部分は私のクラスの案が採用されたものです。クラスの男の子が「～〇〇の青空」と提案し、その〇〇に入る言葉として、当時内気で人前で話すのが大の苦手だった私は勇気を出して、「夢色の」と提案しました。ところがすかさずクラスの男の子から「青空って言っているのに夢色だなんておかしいよ！」という声上がり、恥ずかしい思いをしていると、当時の担任の先生が「夢色の青空～なんて素敵じゃない」と助け船を出してくれたのです。まさかそれが採用されるとは思いませんでしたが、今でも歌われていることがとても嬉しいです。

弾むようなリズムと明るい旋律で、全校で歌うと晴れやかな気分になり、エンディングのハイトーンは子供たちの夢や希望が空の果てまで届けと言わんばかりに長く続きます。昨年度の音楽会でお話ししたように、音楽には皆の気持ちを一つにし、聴く人の心に響かせるメッセージがあります。両小じまんである「長い歴史と卒業生」が残してくれた私たちの両小賛歌。エピソードを寄せられた卒業生の方は、「歌にはその時代の記憶を蘇らせる力がある」と語られています。当時の両小の子であった同窓生たちの思いが一杯に詰まった歌詞ならば、その感慨もひとしおであったでしょう。本校の宝物である賛歌を皆で高らかに歌えることを喜びとし、これからも未来に繋いでいけることを願って讃え合いたいと思います。

※本校が来年度開校150周年を迎えるにあたり、「両小今昔」として本校縁のあるものを紹介していきます。